

8 課 し じ ひょうげん つか わ 指示表現「こ・そ・あ」の使い分け

文章にまとまりを持たせるために、指示表現は大切な役割を持っています。文章中の指示表現には「そ」または「こ」のつくものを使い、ふつう「あ」のつくものは使いません。

A 文章中の「こ・そ・あ」の基本

◆文章の中の指示語はふつう、前に出てきた言葉や文を指します。

◆文章では「そ」を使うのが基本です。

◆話題や指すものが、話者と心理的に近いことを示したいときは、「こ」を使うことが多いです。

例・人の話に耳を傾けて熱心に聞く。このことの大切さをわたしはこのごろ実感している。
 ・昨日、佐藤さんが訪ねてきた。この人には10年以上もの間会っていなかったが、決して忘れてはいけない人である。佐藤さんは……

B 「こ」しか使えない場合

1. 話者が紹介した言葉やデータを指すとき

例・「それでも地球は動いている」。これは地動説を唱えたガリレオ・ガリレイの有名な言葉である。
 ・現在、日本の小麦の自給率は約12%である。この数字はさらに低くなるとされる。

2. 指すものの原因・理由を詳しく言うとき

例・野菜の値段が通常より上がっているそうである。これは4月になっても寒い日が続いたためである。
 ・ダイエットに成功してこのごろ体調がいいです。これは妻が厳しく健康管理をしてくれたおかげです。

C 「そ」しか使えない場合

1. 仮定文(もし～たら・たとえ～ても)の中のものを指すとき

例・もし住民が反対してこの計画が実行できなくなったら、その責任はだれがとるのか。
 ・たとえ遠くへ引っ越しても、そこでもきつとたくさんの友達ができるだろう。



2. 話者が指示・依頼・勧誘した内容に関係のあるものを指すとき

例・当日の会費は受付の人に払ってください。その人が会場に案内してくれるはずです。
 ・集合場所に着いたらまずカードを受け取ることに。それに自分の名前を書いて胸につけてください。

3. すぐ前にある言葉を指すとき(「その」を使います。)

例・この箱の中に製品とその使用説明書が入っています。
 ・まず円をかき、その中に好きな言葉を書き三つ書きます。

4. 他者の意見や、前の文で書いたことを否定するとき

例・景気はだんだん回復していくと言う人もいますが、わたしはそうは思わない。
 ・彼には本当に指導力がないのか。そんなことはないと思います。

D 「あ」を使う場合

1. 筆者が個人的な文章の中で、回想して述べる時

例・沢田氏と別れてもう20年になる。あの人は今どうしているのだろうか。
 ・青森から引越してきたのが3年前の3月。あれから青森には一度も行っていない。

問題1 どちらが適当な方を選びなさい。(両方良いものもあります。)

- 「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」(a これ b それ)は『雪国』という小説の有名な一節である。
- ある雑誌にわたしはK. N. の名を見つけた。(a この b その)人とわたしにはある秘密のつながりがあった。
- 現在日本でウェブニュースを読む人の割合は20代が最も高く、72.8%、読まない人は26.9%、同じ年代で新聞を読む人は52.7%、読まない人は46.7%となっている(平成21年文化庁調査)。(a この b その)数字からどんなことが言えるだろうか。
- 町の本屋の閉店が相次いでいる。(a これ b それ)は主に、インターネットによる直接購入や大型書店の出現で、利用率が下がったためと考えられる。
- まっすぐ行くと入り口があります。(a ここ b そこ)に立っている人が入館許可証を渡してくれるはずです。



- 6 この原稿を^{げんこう}チェックして^{もんだいてん}問題点を見つけ出してください。(a この b その)箇所は後でわたしが^{さい}再チェックします。
- 7 もし別の人がこの会を^{うんえい}運営することになったら、(a この b その)人に^{ないよう}しっかり会の内容を説明したい。
- 8 このイベントに^{さんか}参加していただけるのは、^{しょうがくせい}小学生と(a この b その)^{ほごしや}保護者です。
- 9 アンケート^{けっか}結果については^ず図Aを見ていただきたい。(① a この b その)グラフからわかるように、^{ぶくろ}買い物袋を^{かなら}必ず^{じさん}持参する人はまだ多いとは言えない。(② a これ b それ)は「^も持ち^{ある}歩くのが^{めんどう}面倒」、「^{かっこう}なんとなく^{おも}格好が^{りゆう}悪い」というのが^{おも}主な理由のようである。
- 10 大学の^{きつ}前にある^{きっさてん}喫茶店でよく^{お茶}コーヒーを飲んだものだ。(① a その b あの)喫茶店はまだ(② a その b あの)場所にあるだろうか。

問題2 ^{てきとう} ^{えら} 適当なものを選びなさい。

新聞を^よ読んでいて、これは^{おもう}と思う記事に^{ぶつかる}ぶつかる。あとで^{きり}切り抜いて^{おこう}おこう、^{おもう}思いながら、^{ほか}ほかのところへ^め目を移す。ところが、この「あとで」が^{くせ}くせものである。しばしば、その「あとで」は^{どうとう}どうとう、^ややってこない。

忘れてしまう、というのではない。覚えてはいる。ただ、^{とりまぎ}とりまぎれて、二日も三日も^経経ってしまうことが^{すくなく}すくなくない。そこで^{おも}思い出して、^{そう}そう、(① a これ b それ c あれ)を^{きり}切り抜かなくてはと、^{しんぶん}新聞を^{とり}とり出して、^{たぶん}たぶん、(② a ここ b そこ c あそこ)では^ななかったか、^{おもう}思うところを見ると、^{ない}ない。おかし、^{とす}とすこし^ああわてる。こうなると、^{もう}もう^み見つからない。さては、^{夕刊}夕刊だったか。(③ a こんな b そんな c あんな)ことは^{ない}ない。たしかに^{朝刊}朝刊で、(④ a この b その c あの)ページだったと^め目を皿のように^{する}するが、^み見つからない。いら^らいらする。そうなると、^{ますます}ますます^{大事}大事なことが^{書いて}書いてあったように^{おも}思われてくる。

どうも、^{興味}興味をもって^よ読んだものは、^{頭の}頭の中へ^入入ると、^{勝手に}勝手に^変変化するらしい。たしか、(⑤ a こんな b そんな c どんな)見出しの^{感じ}感じだったと^{おも}思って^{さが}さがすのに、^見見当たらない。や^つつと^{さが}さがし^{当て}当ててみると、^{頭の}頭に^描描いていたのとは、^違違っているではないか。

それでも^出出てくれば^{いい}いい方である。三、四日前に(⑥ a こんな b そんな c どんな)記事があった、^いいので^{さが}さがすときなど、^{まず}まず、^み見つからない方が^{多い}多い。購読紙が^{一紙}一紙だけ^{なら}ないが、^{三紙}三紙も^{四紙}四紙もあると、^{そも}そもそも(⑦ a この b その c どの)新聞だったか^{すら}すら、^ああやしく^ななってしまう。新聞の^山山の中から、^目目ざす^{記事}記事を見つけ出すのは、^よよほどの^{平常}平常心が必要で、^ああせったり、^急急いだりして^{いて}いては、^決決して^み見つけれない。

(外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫による)

まとめ ^{つぎ} ^{ぶんしやう} 次の文章を^よ読んで、^{ぶんしやうぜんたい}文章全体の^{ないよう}内容を^{おも}考えて、 1 から 5 の中に入る^{もっと}最も^{よい}よいものを1・2・3・4から^{一つ}一つ^{えら}選びなさい。

雨を見ていて^{おもしろ}面白い^{経験}経験をしたことがある。絵の中で雨を^か線で^か描くのは日本人だけらしい。ゴッホ(注1)が^ま模写した有名な^{ひろしげ}広重(注2)の 1、雨を^か線であらわすというのはヨーロッパ人には^{しんせん}新鮮だったらしい。 2 もちろん大人になってから^し知ったことだ。認知学の方でも、雨を^か線として^み見るのは日本人独特の^{しん}認識なのだと^い言っている。 3 おもしろいことだ。欧^{おう}米人には^{べいじん}雑音として^きしか^き聴こえない虫の^{ねいろ}音の音が、日本では^すすごく^{うつく}美しい^{ねいろ}音色に^き聞こえたりする^{かん}感覚と、^{どこ}どこかで^{とお}通じているのではないか^{とお}思う。

ぼくも、雨というのは^{そも}そもそも^ほ細かい^{水の}水の^か線になつて^お落ちて^{いる}いるものだと^{おも}思っていた。 4 はどこまで^{つな}繋がっているのだろうか^{とお}不思議だった。ところが、あるとき先生に「雨は^{ほん}本当は^か線ではない。水の^{つぶ}粒が^お落ちて^{きて}きているんだ」と^お教わった。でも^{なん}なんとなく^{それは}それは^な納得が^いいかなかった。雨を見て^{いる}いると、^{どう}どう^みみても^か線に^み見える。線に^み見えるのに^{つぶ}粒だとは、^{どう}どうも^な納得が^いいかなかった。

その後^{学校}学校で、^{万有}万有^{引力}引力のことを^し知った。理科で^ま習ったのか、^{図書館}図書館で^よ読んだのか、^友友だちと 5 ^{しゃべ}しゃべったりして^覚覚えたのか^ももしれない。綿と^{くぎ}釘を^{同時}同時に^お落と^{した}した場合、^{空気}空気の^{たいこう}抵抗が^ななかったら^綿綿も^{くぎ}釘も^{いっしょ}一緒に^お落ちると^き聞いて、^{これも}これも^ななかなか^な納得が^いいかなかった。

(赤瀬川原平『目玉の学校』ちくまプリマー新書による)

(注1) ゴッホ：オランダの^が画家(1853～1890)

(注2) 広重：日本の^{うきよ}浮世^{えし}絵師(1797～1858)

- | | | | | |
|----------------------------|-----------------|-----------------|-------|-------|
| <input type="checkbox"/> 1 | 1 雨の絵もそんなのだが | 2 雨の絵もああなのだが | | |
| | 3 雨の絵はそれほどでもないが | 4 雨の絵はあれほどではないが | | |
| <input type="checkbox"/> 2 | 1 これは | 2 それは | | |
| | 3 こんなふうに | 4 そんなふうに | | |
| <input type="checkbox"/> 3 | 1 これは | 2 それは | 3 あれは | 4 どれも |
| <input type="checkbox"/> 4 | 1 どんな水の線 | 2 そんな水の線 | | |
| | 3 あの水の線 | 4 その水の線 | | |
| <input type="checkbox"/> 5 | 1 このように | 2 そのように | | |
| | 3 こんなことを | 4 そんなことを | | |